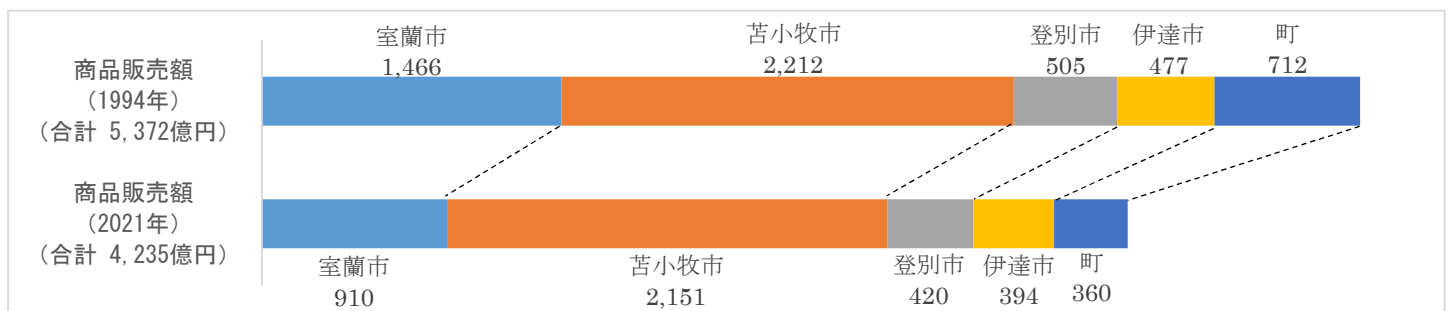


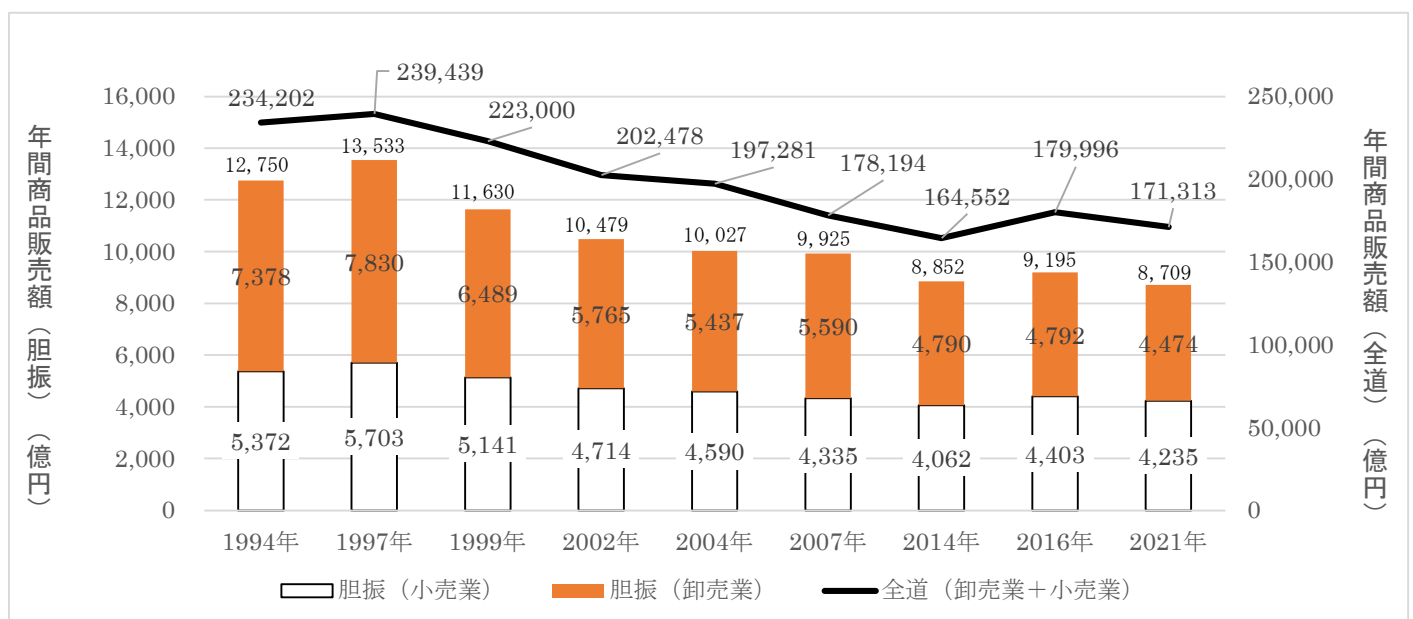
- 胆振の商業は、室蘭市や苫小牧市を中心に発展してきました。
- 卸売業の中心は室蘭市及び苫小牧市で、管内の卸売商品販売額の約9割を占めています。また、小売業においては、苫小牧市、室蘭市、登別市及び伊達市に大型店舗が集まり、4市の小売商品販売額の合計は管内の約9割を占めています。
- 1994年には712億円あった町での小売商品販売額が2021年には360億円となり、胆振管内全体の商品販売額の減少率が21%であるのに対し、町では49%となっており、スーパーがなく地元での買い物が難しい地域もあります。
- 商品販売額については人口の減少や高齢化の進展とともに全道的に減少してきており、胆振管内においても同様に1997年を境に減少が続いています。
- 都市部においては、大型店舗の相次ぐ出店により消費者が買い物をする場所の選択肢が増加している一方で、中心市街地や地域の商店街の集客力低下や空洞化が進んでいます。そのため、各地の商店街においては、集客力を高めるため、地元の食材を生かし、人の往来を促す取組を実施しており、例えば、苫小牧市では名物の「とまこまいホッキカレー」が文化庁の100年フードに認定され、2022年に認定された「とまこまいカレーラーメン」とともにW(ダブル)カレーの街としてPRしているほか、室蘭市では「室蘭やきとりの会」が設立され同じく認定に向けて目指しており、魅力ある商店街づくりに向けた取組が管内で活発化しています。

◎市・町別商品販売額（小売）



平成6年（1994年）商業統計調査、令和3年（2021年）経済センサス活動調査

◎年間商品販売額の推移



（平成26年（2014年）まで商業統計調査、平成28年（2016年）以降は経済センサス活動調査）